

先輩を訪ねて

岩谷マテリアル株式会社
合成樹脂本部 ライフデザインプロジェクト 開発

坂本 英明^{さん}

(工学部工業デザイン学科 2006 年卒)



Profile

1982 年東京都生まれ。東京実業高校機械科から拓殖大学工学部工業デザイン学科（現・デザイン学科）に入学。在学中は弓道愛好会で八王子支部長を務め、ソフトティップダーツ愛好会も立ち上げる。卒業後、プラスチックメーカーのデザイナーを経て、2011 年岩谷マテリアルに入社。ライフデザインプロジェクト部門のデザインプロデューサーとして、2011 年度グッドデザイン賞を受賞した「TAOG スリムティッシュケース」の開発を担当した。

好きだからこそ生まれたアイデア 生活に欠かせない商品を作っていきたい

合成樹脂や金属をベースにした生活用品を製造・販売する岩谷マテリアル。坂本英明さんは、同社の中でもスタイリッシュなデザイン雑貨の開発に特化した部門「ライフデザインプロジェクト」に所属するデザインプロデューサーだ。昨年担当した縦型ティッシュケース「TAOG スリムティッシュケース」は、デザイナーの提案に坂本さん独自のアイデアをプラスすることで、斬新なデザインと使い勝手の良さを両立させ、2011 年度グッドデザイン賞を受賞。インテリア雑誌や全国紙でも話題になった。

デザイナーから開発へ転身

幼い頃からものづくりが好きだったという坂本さんは、拓大の工業デザイン学科に入学した。3 年次には、同学科がパソコン周辺機器メーカーの BUFFALO 社と毎年実施する「産学協同プロジェクト」に参加し、WEB コンテンツデザインの提案でベストプレゼンテーション賞を受賞。「賞をもらったのが正直うれしくて」、勉強モードにスイッチが入った。

3 年次後半からは、岡崎章教授の「感性デザイン研究室*」で、「チャイルドライフデザイン」の研究に取り組み始める。

「北里大学病院・小児病棟の協力の下、小児医療の現場を体感し、入院患児たちの生活を目の当たりしました。私の提案したツールが少しでも入院患児たちの役に立てば…という想いが研究の原動力となりました。」

坂本さんは卒業後、いったんはプラスチックメーカーに就職。デザイナーとして大手飲食チェーンの食品容器や卓上用品をデザインしていたが、「デザイナーの枠を超え、

開発から商品に携わりたい」という思いから、昨年の春、岩谷マテリアルに転職した。

「手」を動かして解決策を探る

若さとデザイン業界での経験、そして“愛嬌が良くてお酒も飲める”という条件をクリアし、同社のライフデザインプロジェクトに配属され、「TAOG スリムティッシュケース」を担当することになる。省スペースと詰め替えによる省資源を目指した商品はまだ試作段階で、ティッシュが途中で詰まったり、何枚も重なって出てしまう問題に直面していた。そこで、坂本さんは試行錯誤を繰り返し、商品の一番のポイントである“ホルダー”のアイデアを思いつく。

「縦型のケースなので、ティッシュが中で倒れたり広がってしまっていたんです。どうにかしてティッシュを保持できないかと考えて。会社にあったクリアファイルをいろんな形に加工して実験しました。ある日、『筒状にしたらどうだろう?』と半分ひらめきでやってみたら、最後の 1 枚までスッと出て——それができたおかげで、商品化を一気に進めることができました。外観や形状を考えるのがデザイナーの仕事だとすると、いま私の仕事は、そのアイデアをできる限り維持しながら、商品として機能するのに作り上げること。『問題があってこの先に進めない』という時に、とりあえず手を動かしながら原因や解決策を探っていくのは、自分にとって自然な動きなんです。ものづくりが好きですから。」

坂本さんはホルダーに加え、小さなサイズのティッシュをセットできる底上げ台も考案。その間、市場にあるさまざまなメーカーの

ティッシュを買い集め、不具合が出ないか検証する作業も 1 か月がかりで行った。そして、「プロジェクトの目標のひとつ」というグッドデザイン賞に応募し、見事受賞。ホルダーは現在、特許申請中だ。

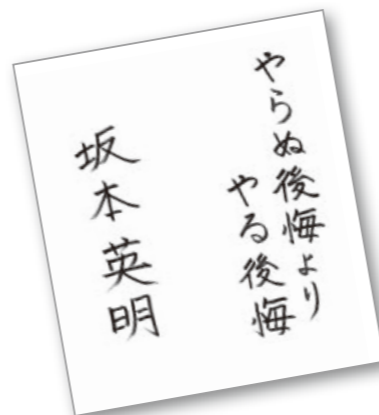
「この商品には、将来的に箱型のティッシュをなくし、省エネにつなげようという思いをこめています。商品のネーミングにもうんちくがあって、TAOG を反対から読むと GOAT（山羊）。山羊は紙を食べるけど、紙を出すから TAOG なんです（笑）。そういうふうな、ストーリーのある商品を作り上げて、お客様に楽しい気分になってもらったり、便利だと感じてもらうことが、私たちライフデザインプロジェクトの目的です。」

開発の仕事は「橋渡し」

取材時、坂本さんはシャンプーやボディソープを入れるディスペンサーの開発に取り組んでいた。一部のパーツを中国で生産するため、現地に赴いて交渉を重ねている最中だという。

「開発の仕事は、デザイナー、生産現場、営業の真ん中に立って橋渡しすることですから、問題が起きたとき、どの相手にもきちんと説明できなければいけません。そのためにも、金型や合成樹脂、成型技術などについて熟知しておく必要があります。いまはベテランの方について日々勉強ですが、ゆくゆくは自分で一から企画に取り組んでいきたい。目標は、生活の中で『欠かせない』と思ってもらえる商品を作ることです。」

*感性デザイン研究室（現・感性インタラクション研究室）…岡崎章教授の指導のもと、小児医療の現場で、大人には計り知れない恐怖や悲しみから入院患児を解放し、治療効果を高めるための「チャイルドライフデザイン」を研究している。



坂本さんが手がけた、岩谷マテリアル・ライフデザインプロジェクトの製品。2011 年度グッドデザイン賞受賞の「TAOG スリムティッシュケース」(左)と 2 月発売の「RETTO ディスペンサー-L」。いずれも東急ハンズ、ロフト、全国のインテリアショップで購入できる。